学　校　紹　介

昭和薬科大学附属高等学校

本校は、東京都町田市にある昭和薬科大学が、太平洋戦争で多大な被害を受けた沖縄県に人材育成を通して貢献するため、昭和49年に設立され、今年で創立40周年を迎えました。開校時の１学年定員は60名でしたが、現在では1学年定員200名になり、昭和61年には附属中学校が併設され、中高一貫教育が行われています。

本校は、東京大学や京都大学などの難関の県外国公立や私立大学、琉球大学医学科など難関の学部学科へ多くの進学者を輩出しています。本校の教育方針は、社会と郷土の発展に貢献する有為な人材を育成するという＜建学の精神＞に基づき、大学進学に適応した中高6ヵ年一貫の特色ある教育課程を編成して生徒の学力を最大限に伸ばし、同時に活力に満ち、逞しく、情操豊かな人格を育成することです。

本校の校訓は、「専一集注」と「堅忍不抜」という言葉です。これは、「一心で雑念のない精神集中」と「我慢強く心を動かさない」という意味で、自分が今立ち向かっている目標や希望を達成するには、そのことだけに精神を集中して忍耐強くやり遂げなさいということです。学習であれスポーツであれ、自分の目標の実現のため強靭な意志を持ち、主体的に学び行動できる。そのような生徒が本校の生徒像です。

現在、運動部は、バスケットボール・バレーボール・ハンドボール・テニス（硬式・軟式）・サッカー・剣道・空手・バドミントン・卓球・野球部があり、夏の高校総体県予選には例年130名前後の生徒が参加しています。

【平成16年から平成25年までの各部の主な実績】

平成16年　沖縄県高校冬季剣道大会男子団体３位
沖縄県高校総体剣道男子個人３位
女子団体３位
ゴルフ女子個人２位
沖縄県高校新人大会ゴルフ個人２位

平成17年　沖縄県高校総体剣道男子個人２位
女子団体３位、女子個人３位
高木杯剣道大会　女子団体３位

平成18年　沖縄県高校総体女子ヨット個人優勝
個人２位
沖縄県高校新人大会女子ヨットFJ級優勝

平成19年　沖縄県高校新人大会女子ヨットFJ級優勝
女子新体操　個人総合３位

平成20年　沖縄県高校総体女子ヨットFJ級優勝
SH級２位
沖縄県高校新人大会女子ヨットSR級
優勝
フェンシング男子サーブル２位

平成21年　沖縄県高校総体女子ヨットFJ級２位
フェンシング男子団体２位
サーブル３位、フルーレ３位
剣道女子団体３位
沖縄県高校新人大会剣道男子個人２位
女子団体３位
女子ヨットFJ級優勝、SR級２位

平成22年　沖縄県高校冬季剣道大会男子団体３位
女子団体３位
沖縄県高校総体　剣道　男子個人優勝
男子団体３位、女子団体３位
女子ヨットFJ級優勝、SR級２位
全九州高校ヨット競技女子FJ級　10位
SR級７位
沖縄県高校新人大会剣道男子団体３位
女子団体３位
沖縄県高校冬季剣道大会女子団体３位

平成23年　沖縄県高校総体　剣道　男子団体３位
女子団体３位、男子個人３位
ヨット　女子SR級　　優勝
陸上　男子400m　　３位
全九州高校ヨット競技女子SR級　３位
高木杯剣道大会　高校男子団体　３位
沖縄県高校新人大会剣道男子団体３位
ヨット　女子SR級　優勝

平成24年　沖縄県高校総体　剣道　女子団体３位
男子個人３位、女子個人　３位
ヨット　女子SR級　優勝
陸上　男子400m　３位
全九州高等学校ヨット競技SR級　６位
沖縄県高校新人大会テニス男子団体３位
剣道男子個人３位

平成25年　九州高校剣道大会男子個人　ベスト８
沖縄県高校総体　剣道　女子団体３位
男子個人３位
陸上男子400m２位、男子200m３位

「海邦養秀」と「震天動地」

首里高等学校

1　学校沿革

本校は、明治12年の廃藩置県に伴う「教育令」により、寛政10年に国王尚温の開いた「国学」を首里中学校と改称して開学された。以来、沖縄尋常中学校（明治19年）、沖縄県中学校（明治32年）、沖縄県立中学校（明治34年）、沖縄県立第一中学校（明治44年）と校名の改称があり、戦後の翌年昭和21年１月27日、現在の沖縄県立首里高等学校として創立され現在に至る。首里中学校から本年平成25年まで133年、「国学」開学から215年に及ぶ、県内屈指の伝統校である。

2　「海邦養秀」と「震天動地」

本校の源である「国学」には国王尚温自らの筆により「海邦養秀」の額が掲げられたと伝えられる。廃藩置県後、一度は尚家に帰されたが、当時の教員や上級生の懇願により、太平洋戦争で消失するまで学校正面玄関に掲げられた。消失後、その拓本を基に復元され、現在は体育館に掲げられ、永く本校の教育指針として現在に至っている。

「震天動地」は、大正９年秋、野球大会の応援幟として、当時の山口沢之助校長の筆により誕生したと伝えられている。天を震わし地をも動かしめる気概をもって事に臨むこの心意気は、現在も受け継がれ、運動部活動の各部旗にも織り込まれ、生徒の活躍を見守っている。

3　運動部活動の活躍

これまで、本校は甲子園の土の逸話等々数多くの運動部活動の活躍があり、その活躍は各書籍に詳しく記されているため、平成16年～ 25年までの本校の沖縄県高等学校総合体育大会学校対抗の活躍についてまとめてみたい。

平成16年度・・・県総体男女総合３位
平成17年度・・・県総体男女総合３位
平成18年度・・・県総体男女総合６位
平成19年度・・・県総体男女総合10位
平成20年度・・・県総体男女総合６位
平成21年度・・・県総体男女総合８位
平成22年度・・・県総体男女総合７位
平成23年度・・・県総体男女総合８位
平成24年度・・・県総体男女総合11位
平成25年度・・・県総体男女総合５位

以上のように、過去十年間は平成19年度と24年度を除き、上位一桁の入賞を続けており、学校全体として運動部活動の活躍が脈々と受け継がれている。

近年の活躍している部活動をあげてみると、空手道、なぎなた、弓道の武道系部活動が県大会はもとより、九州や全国も優秀な成績をあげており、学校全体の競技成績を引き上げる牽引役を果たしている。また、女子サッカー、女子バレーボール、女子バスケットボール、ソフトテニスといった部は安定した力をもっており、継続して上位のレベルを維持しつづけている。更に、陸上競技や相撲、ゴルフでも個々のパフォーマンスの高さで団体、個人共に優勝または上位入賞を果たしてきた。また、新たにホッケー、ヨット、ロッククライミング等々、新たな運動部活動も誕生し、県総体や新人大会、ブロック国体等で上位進出が見込まれる。

創立30周年を迎えて

首里東高等学校

本校は昭和59年に創立し、今年30周年を迎える。これまで校訓を「敬」・「達」・「創」の下、「三錬三学」のモットーに創立以来、勉強とスポーツを両立した生徒像を目標に励み多くの人材を輩出してきた。

校訓の「敬」は、自然と人間を敬愛する豊かな心を育て、また、その心を実践しうるたくましい健全な体を育てる。自らを大切にし、尊敬されるためには、他を大事にし、尊重することが必要であり、人間が生きていくためには自然を大事にしなければならない。生活習慣は「敬」を基本として考え行動する。

「達」は、偉大な目標の達成を期するためには日々の身近な目標を達成せねばならない。そのことを理解し自覚し、実践する。個々の目標達成の喜びを味わい、成就感が次の目標へ進む原動力となることを自覚し、将来の進路、目標達成にむけて、一日一日を実践する。

「創」は、ものごとを主体的に判断し、対処する基礎・基本的行動に習熟し、さらにその発展的な思考・行動の創造性を培う。情報量の拡大、価値観の多様化、国際化等により、複雑化する社会で、個性の多様な可能性を実現するために、より豊かな創造力を養う。

「三錬三学」とは、三時間は部活等で心身の鍛練をするとともに三時間自宅学習することを日々実践する。

本校体育系部活動実績は以下の通り。

平成16年度

沖縄県高等学校総合体育大会
　水泳競技男子200m個人メドレー２位上原光平
沖縄県高等学校新人体育大会
　水泳競技男子200m自由形１位
　200m個人メドレー２位　上原光平

平成19年度

平成22年全国高校総体強化指定候補校女子ソフトテニス部内定

平成20年度

全国高等学校総合体育大会
　ソフトテニス競技出場　石川亜梨花・松田里美
沖縄県高等学校新人体育大会
　ソフトテニス競技女子団体準優勝
　個人優勝　松田里美　石川亜梨花

平成21年度

沖縄県高等学校総合体育大会
　ソフトテニス競技女子準優勝　男子3位
　ソフトテニス競技個人
　　優勝　石川亜梨花・松田里美
　卓球競技女子ダブルス第３位
　　大城理穂・大城里奈
　ゴルフ競技優勝　玉城大地
沖縄県新人体育大会
　ボクシング競技 モスキート級
　　優勝　東江勇太
　ソフトテニス競技　女子団体準優勝

平成22年度

沖縄県高等学校総合体育大会
　ソフトテニス競技　女子団体優勝
　　個人優勝　神里千尋　岸本可南子
　　準優勝　石川亜梨花　松田里美
　卓球競技団体3位
　　大城百代　當間季紗子　上間梨野
　　上原世梨奈
　ソフトテニス美ら島総体出場
沖縄県新人体育大会
　卓球競技 女子学校対抗第3位
　女子ダブルス第３位　上原世梨奈　大城百代
　水泳競技　50メートルバタフライ
　　3位　嘉手納悠暉

平成23年度

沖縄県高等学校総合体育大会
　ソフトテニス競技　女子団体準優勝
　　女子個人3位 中里可奈絵・松田愛美
　陸上競技　砲丸投げ4位　漢那一将
　水泳競技　50M自由形5位　嘉手納悠
沖縄県高校新人体育大会
　ソフトテニス競技 女子団体３位
　　個人優勝　知花来夢　仲里可奈絵

平成24年度

沖縄県県高校総合体育大会
　ソフトテニス競技
　　女子個人３位　仲里可奈絵・知花来夢
　相撲競技大会　80kg未満級　２位　比嘉秀鳳
沖縄県高等学校新人体育大会
　自転車競技（雨水有加）
　女子スプリント　優勝
　女子500Mタイムトライアル　優勝
　女子インディヴァイアルロードレース優勝
　女子インディヴァイアルパーシュート優勝

平成25年度

沖縄県高等学校総合体育大会
　弓道競技男子団体優勝
　　大城成樹　中田健吾　屋良慶太　仲里蓮
　　崎浜春樹　津嘉山隆彦　本郷健斗
　陸上競技 男子砲丸投げ２位宮城将彰　記録11m67
　剣道競技　男子団体３位　仲程 涼　井上 凌
　　我喜屋広一　伊波瑞生　徳留寿光　永山盛智
　相撲競技
　　個人中量級２位比嘉秀鳳　軽量級３位上原柚輝
　自転車競技女子個人戦（雨水有加）
　　スプリント2位　500Mタイムトライアル2位
　　2KMインディヴィデュアルパーシュート２位
　　インディヴィデュアルロードレース２位
　自転車競技男子個人戦（ラモス　レオ）
　　スプリント３位　ケイリン３位